Ⅱ　一宮町をさらに住みたく住み続けたい町にするために

総合戦略効果検証評価表	事業実施年度：令和5年度	第2期総合戦略期間（令和4年度～令和8年度）
関連するSDGｓゴール		
基本目標3		

評　価
A:計画以上に進捗しており、継続して推進する。
B:ほぼ計画どおり進捗しており、このまま継続して推進する。
C:目標をやや下回る見込みであり、要因の分析と見直しの要否を検討する。
D:目標を大きく下回る見込みであり、要因の分析と見直しを要する。

暮らしの充実度を上げるための子育て・教育・文化の増進

■本町ならではのライフスタイル（自然豊かでありながら、都心などへの通勤・通学利便性を有する）の維持や、子育て・教育環境の充実を通じて、ファミリー世帯の移住を促進するとともに、一時来訪者を定住に結びつけます。また、就学などで一度町を出ても「また戻ってきたい」と思えるまちづくりに取り組みます。

事業名	事業内容	R４ 内容・実績	R４ 今後の課題・対策	R４ 評　価	R５ 内容・実績	R５ 今後の課題・対策	R５ 評　価
①住民目線の情報発信強化 (総務課・企画広報課)	自然や子育て・教育環境などの本町の魅力を、広報紙「るるぶ一宮町」、ホームページ、ＳＮＳなどを通じて広く情報発信します。文字や画像のみでは伝えにくい内容については、動画コンテンツを作成することでより効果的な情報発信を行います。	主に防災無線の内容を発信していたｻｲﾈｯﾀｰ等のSNSで保育所の行事や各種行事の広報を多く行いました。また、ホームページは見やすくなるようにレイアウトの修正を行いました。	更なる魅力発信強化のため、ｲﾝｽﾀｸﾞﾗﾑを主体とした、情報発信を行います。また、広報紙は広報紙アンケート等を参考に読みやすい魅力ある紙面作りに努めます。 防災行政無線の受信方法の周知を行う。	B	ｲﾝｽﾀｸﾞﾗﾑ等による情報発信を開始し、町の魅力発信を行っています。広報紙は、全ページカラーを始め、写真やイラストを使い読みやすい紙面作りに努めています。また、スマートフォン用アプリを活用し、より多くの方へ広報紙が届けられるようになりました。	引続き、SNSを活用した情報発信を行うとともに、町の魅力がより伝わるような投稿となるよう努めます。 広報紙は、限られた書面の中で、読みやすい内容になるよう紙面構成を検討していきます。また、伝えきれない内容はホームページへ誘導するなど様々なツールを活用した情報発信に努めます。 防災アプリ等、防災行政無線の受信方法について継続して周知をおこなっていきます。	B
②子育て支援拠点の環境改善 (子育て支援課)	子育て支援拠点の老朽化に対応し、環境の改善を図ります。	いちのみや保育所では、調理室床修繕等老朽化している箇所の小破修繕や児童や保育士を見守る保育カメラの設置を行いました。また、一宮どろんこ保育園では、月１度在籍がない児童を対象に保健センターで出前保育を実施しました。 学童保育は、図書を充実させ、環境整備を行いました。	公共施設改修に伴う財政計画により、いちのみや保育所大規模改修は令和１５年度以降に延期になり、今後も小規模の修繕を行いながら、児童が安心安全な保育を受けられる環境整備を行います。 学童保育は児童の意見も取り入れ、環境整備を継続してまいります。	B	いちのみや保育所では、施設の老朽化に伴う小破修繕を行いました。また、保健センターで、月１度在籍がない児童を対象にいちのみや保育所と一宮どろんこ保育園が出前保育を実施しました。 学童保育は、エアコン取替及びチャリティゴルフの寄附を活用して、本棚やＤＶＤプレーヤー及び図書を購入し、環境整備を行いました。	いちのみや保育所はどの園所が老朽化が進んでいるか不明な為、業者に調査委託をする検討を行っていきます。 学童保育は支援員不足の為、今後も長期休暇時は学童増設が困難になる恐れがあるので、運営を外部委託する検討を行っていきます。	B
③アフターコロナの新たな働き方の促進 (総務課・企画広報課・住民課・税務課・産業観光課)	デジタル化におけるDX を視野に入れた働き方を促進します。また、ワーケーションが可能な地域づくりを行うために、宿泊施設やカフェなどの各種施設の整備促進を図ります。 行政機関の日常的な業務にＩＣＴを導入し各種証明書の交付を検討し、住民の利便性向上や業務の効率化を図り住民サービスの向上に努めます。	地方創生臨時交付金を活用したアフターコロナ事業の促進として、 個人番号カード（マイナンバーカード）を活用した、住民票の写しや印鑑登録証明書、税証明書の各証明書をコンビニエンスストア等で受け取るサービスを令和５年３月から開始しました。 また、地方行政のデジタル化を推進するため、住民情報を扱う20業務について、国が示す標準仕様に準拠したシステムへの移行準備を令和4年度より開始しました。	地域の発展や住民生活の質を向上させるためには、行政機関や町内のデジタル化・ITの推進、オープンデータの活用、スマートシティーの構築、地域へのIT人材の育成、民間企業との連携などが考えられます。デジタル田園国家都市構想を注視しつつ対応策に取り組んでいきます。また、全町民のマイナンバーカード取得に向け、引き続き申請・交付の支援を行うとともにコンビニエンスストア等での住民票や税証明書の交付の周知を図ります。 更に国が目標としている令和7年度末までに、標準準拠システムへの移行を順次進めていきます。また、保護内部に おける統括的中心部局の設置や内外の研修を行ってまいります。	B	令和5年度時点でデジタル田園都市国家構想交付金を活用した事業は行っていないが、今後活用する可能性を踏まえ県が開催する県地域説明会等に参加し、制度概要や総合戦略改訂に関する理解を深めました。（企画広報課） コンビニエンスストア等での各種証明書の交付サービスについて、ホームページ及び広報で町民に周知を行いました。 令和５年度発行実績 住民票　476件 印鑑証明書　444件 税証明書　３１件 （住民課・税務課） 標準準拠システムへの移行については、現行システムとの差異の洗い出しが一部を残し完了した。 （総務課） 10月から各種証明書の交付手数料や施設使用料などの支払いについて、クレジットカードや電子マネーによるキャッシュレス決済を導入しました。 【令和5年10月から令和6年3月の利用実績】 総務課　（東浪見コミュニティセンター使用料）　15/124件 住民課　（各種証明書）　473/3,927件 税務課　（各種証明書）　63/843件 都市環境課　（犬登録手数料等）9/81件 企画広報課　（物品販売）　7/51件 教育課　（施設使用料）　70/894件 利用率10.8% （会計課）	デジタル田園都市国家構想の中で本町が取り組むべき具体的内容について次期総合戦略に反映させるため活用できる補助金の調査・研究、関係課との調整が必要です。（企画広報課） 各種証明書の交付サービスについては引き続き、町民の利便性向上を図るため、周知を行っていきます。 （住民課・税務課） 担当課への説明会を実施するなど、令和７年度中の移行に向けた取り組みを行なっていきます。 （総務課） 令和5年中に現行システムと標準準拠システムとの差異の洗い出しが完了し、令和６年度は担当課への説明会を実施するなど、令和７年度中の移行に向け引き続き取り組みます。 （総務課） 公金収納事務については引き続き、町民の利便性向上や効率化に努めます。 （会計課）	B
④「防災」「安全円滑な交通確保」「景観形成・観光振興」を踏まえた無電柱化の推進 (都市環境課)	災害時の電柱倒壊に伴う停電防止や魅力的な景観形成のため、玉前神社周辺において無電柱化(電線の地中化)を推進します。	無電柱化について調査検討	関係者との調整、多額の費用など問題が多い	D	無電柱化費用について国土交通省のデータを基に試算を行いました。費用については5.3億円/kmと高額な工事費となる見込みです。	玉前神社を中心とした、無電柱化実施エリアの選定を行っていきます。 課題としては高額な事業費と、一定間隔で地上機器（トランス）を民地内へ設置する為、地元協議が必要となります。	D
⑤新たな教育の促進 (教育課)	児童生徒の確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和を重視した「生きる力」の育成を図るとともに、地域の文化や歴史に触れる活動を通して町民としての誇りや郷土愛を大切にする心を育てます。また、GIGA スクール構想のもと、ICT 教育や情報モラル教育の更なる充実を図ります.	総合的な学習の時間で実施した「まちたんけん」や「まちづくりプロジェクト」では、自分自身が住んでいる町で働く人々の様子や豊かな自然、文化に直接触れながら郷土愛や誇りを育む きっかけとなりました。 また、バラエティーショ様や福祉体験、長生特別支援学校との交流など、心のバリアフリーや多様性を学び、共生社会への理解を深めました。 ICT教育や情報モラル教育として、各学校においてタブレットや電子黒板を活用した授業展開を実施すると共に、保護者も参加する集会等において「インターネットの危険性」等の講演や情報交換を行い、学校だけでなく各家庭においてもネットトラブルやいじめについて理解を深める機会を設けました。	各小学校の総合的な学習の時間では「まちたんけん」や「まちづくりプロジェクト」を実施し、自分自身が住んでいる町で働く人々の様子や豊かな自然、文化に直接触れることで、児童たちの郷土愛や誇りを育む きっかけとなりました。また、創立150周年を迎えた一宮小学校では記念事業として町や学校の歴史を研究し、発表する集会を開催するとともに、地域の方と交流する時間を設けました。 ICT教育や情報モラル教育として、各学校においてタブレットや電子黒板を活用した授業展開を実施するとともに、保護者も参加する集会等において「インターネットの危険性」等の講演や情報交換を行い、学校だけでなく各家庭においてもネットトラブルやいじめについて理解を深める機会を設けました。 一宮中学校は昭和33年の開校以来、多種多様な研究指定校として時代によって変化する様々な教育課題への研究を実践し、その成果を町内外の教育関係者に発表するなど、県の教育の進展に大きく寄与したことが評価され、千葉県教育功労者表彰（団体）を受賞しました。	B	引き続き、児童生徒の「生きる力」の育成を図るとともに、地域の伝統文化の継承や共生社会の形成、ICT教育等の推進を図ります。 令和６年度には町内全ての小中学校にコミュニティ・スクールを導入し、保護者、地域、学校が一体となって子どもたちの成長を支える体制を構築するとともに、新たな取り組みとして一宮町栄け橋プログラムを充実させ、学び や生活基盤をつくる幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指します。	B
⑥教育施設の環境改善 (教育課)	児童生徒が安心して学習に取り組める学校環境を整備するために、小中学校や給食施設また社会教育施設(ＧＳＳセンター・公民館など)の老朽化対策を行います。	中学校では南校舎屋上防水事業を実施。給食施設では給食備品(冷蔵庫・コンビスチーマー)の入替を実施。GSSセンターではバスケットゴール改修事業を実施しました。	引き続き、児童生徒や施設利用者が安心安全に利用できる施設整備に努めます。また空調故障や耐震不足等で急速に老朽化の進行した公民館について、最優先で改修等の対策を実施してまいります。	B	東浪見小学校では使用禁止となっていたプランコを撤去し、新たに設置しました。一宮小学校では浄化槽の故障による修繕や老朽化施工ベータ一の部品交換等を行いました。中学校では令和6年度に全学年が4クラスになることに備え、給食室の熱風消毒保管庫を導入や夜間等の備品購入、新たに使用する教室の整備等を実施しました。また、東浪見小学校、一宮小学校、GSSセンターでは高圧受電設備改修工事も行いました。 中央公民館の整備事業については、頻繁に利用している公民館サークルや老朽の図書室利用者にアンケート調査を行い、泊施設の現状、方向の検討会議を7回実施しましたが、議員説明会で整備方針の同意が得られず、事業の進め方を見直しました。	引き続き、児童生徒や施設利用者が安心安全に利用できる施設整備に努めます。 令和６年度、東浪見小学校では老朽化した倉庫の新設工事、一宮小学校では相談室の空調機設置工事、一宮中学校では給食室給湯管設置工事を実施します。 大規模改修となる東浪見小学校雨漏り改修工事や老朽化が進んでいる中央公民館は、公共施設改修に伴う財政計画を踏まえた見直しを行い、優先的に対応します。特に中央公民館整備事業については、関係団体と公募委員で構成する中央公民館建設検討委員会を立ち上げた中で協議を行いながら、タウンミーティングや住民アンケートでニーズを把握した上で、改修等の対策を実施します。	B
⑦町の歴史・郷土・文化の増進 (教育課)	本町の歴史や文化への理解を深めるために、昭和 39 年(1964)に発行された『一宮町史』を全面改訂し、新たな『一宮町史』を編さんします。	令和4年度に「一宮町史編さん委員会」を立ち上げ、会議を2回実施しました。また教育委員会で所蔵する旧家の古文書等について、編さん委員による資料調査を開始しました。郷土の偉人・上総広常が大河ドラマを通ったかけに注目され、関連する事業を行い、地域の歴史への興味関心を集めました。	町内外の資料調査を進めていき、町民の方々が参画できるような体制整備、講座の開催等の普及啓発事業を推進してまいります。	B	「新編一宮町史」の編さんに向けて、編さん委員会議を３回実施し、町内外の古文書や自然、民俗等、様々な分野の調査を開始しました。また千葉県誕生150年記念事業の一環で、郷土の偉人・加納久朗没後６０年を記念して、偉業を紹介するジンポジウムと関連する資料を紹介する特集展示を行い、地域の歴史への興味関心を集めました。令和５年度は中央公民館内の歴史資料展示室で、加納久朗の展示（前・後期）の他、「一宮藩と一宮興」「一宮城」の特集展示を行い、郷土の歴史文化に触れるきっかけ作りに繋がりました。	町内外の歴史資料や自然、年中行事等の調査を継続しながら、これまで あまり知られてこなかった郷土の偉人（縁田出身の政治家・関和知など）や文化財について、講座等の普及啓発事業や報告書等で紹介していきます。また生物文化多様性計画を策定する中で、地域の伝統的な文化習慣や生活様式など、文化の多様性について情報提供していきます。	B

重要業績評価指標（KPI）	現状値	目標値	R４ 実績値	R５ 実績値	R６ 実績値	R７ 実績値
町ホームページ閲覧数	16 万件 (令和元年度)	１７万件	１４万３千件	18万１千件		
児童生徒の学校生活に対する満足度	―	９０％ (町内小中学校)	８８．５％ (令和４年度学校評価アンケートより)	９０．４％ (令和５年度学校評価アンケートより)		
給食施設の整備方針の決定	―	整備方針の決定	整備スケジュール等、暫定的な整備方針の決定	他事業の整備計画の変更に伴う整備スケジュール等、暫定的な整備方針の決定		
文化財講座・歴史講座参加者数	１３０人 (令和元年度)	１５０人	２０８人	228人		